

〔実践事例3〕

単元名

論証の強さを評価しよう ー目指せ！名探偵！ー

■ 身に付けさせたい力（指導事項）

文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。（読むこと ウ）

■ 教材

「作られた『物語』を超えて」 山際寿一 （光村図書3年）

■ 言語活動

本単元では『中学校学習指導要領解説国語編』第3学年「C読むこと」の言語活動例の「ア物語や小説などを読んで批評すること」を参考にして、論説文を読み、筆者の論証の強さを名探偵になりきって評価するという言語活動を位置付けました。論証のために踏むべきステップを体系化したツールミンモデルを用いて論証の確かさや正しさを論証の強度として評価することを通して、文章の構成や展開について自分の考えをもつことを指導します。

授業改善策の提案

授業改善の柱1

単元を通して生徒が自律的に学習を進めることができる学習課題の設定

■ 単元を通して課題解決をめざす言語活動を設定し、目的や意図に応じて文章を読ませる指導



■ 3フレーズ（指導事項・思考操作・言語活動）の学習課題でつくる見通しのある単元構想

筆者の論証の強さを名探偵になりきって評価するという言語活動を設定しました。言語活動を実現するために、ツールミンモデルを用いて「事実」「主張」「論拠」「裏付け」の視点で文章を分析的に読み、筆者の論証の強さを評価する学習活動を通して自分の考えをもつように指導します。また、単元の導入で言語活動のモデルを示すことによって、生徒の学習の到達点を明確にし、全員ができたという達成感を感じられるようにしたいと考えます。

《単元の学習課題》

指導事項 筆者の論証の強さを、

思考操作 ツールミンモデルを用いて分析し、

・・・〔身に付けさせたい思考力 ④分析・総合〕

言語活動 名探偵になりきって論証を評価する。

単元構想具体化のポイント

・複数教材を用いた指導…漫画「名探偵コナン」

・学習用語を生かした指導…「論証」「論証の評価」

生徒が学習課題を理解し、教材文を読みたいという意欲を喚起する目的で、漫画「名探偵コナン」を教材として用います。身近な漫画を例に「論証」「論証の評価」について説明し、コナンが事件を解決していく過程から論証を評価して読むとはどういうことかを捉えさせます。

授業改善の柱2

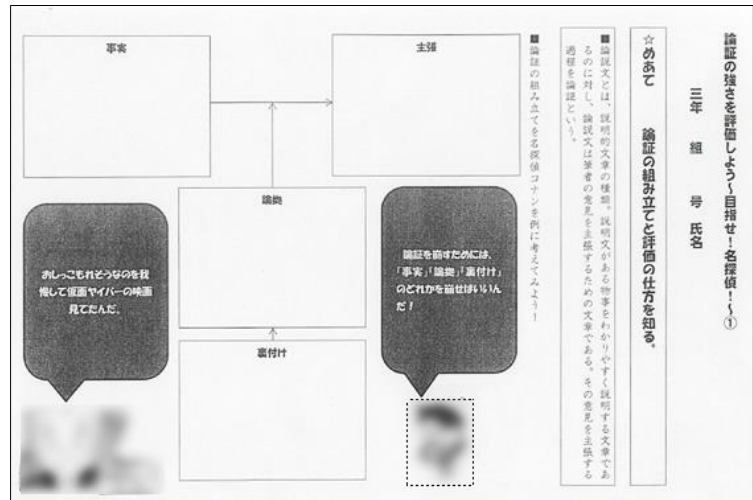
生徒の思考に沿った
ワークシートの工夫

■文章を読む視点を基に
分析的に読ませる指導



■思考ツールを活用した
ワークシートの工夫

論証の4つの組立て（「事実」「主張」「論拠」「裏付け」）を図示したワークシートを活用して筆者の論証の組立てを捉えさせます。論証の組立てを捉えた上で、評価のチェックポイントに従って論証の強さを評価させます。



※トゥールミンモデル・・・イギリスの分析哲学者スティーブン・トゥールミン(Stephen Toulmin)が提唱した議論のレイアウトです。トゥールミンモデルでは、結論を支える根拠を「データ」と「理由付け」に分けて、「結論」「データ」「理由付け」の3つを議論の基本要素として図式化します。

単元の目標

文章を読んで、筆者の論証について評価することができる。

単元の学習課題

- 指導事項** 筆者の論証の強さを、
思考操作 トールミンモデルを用いて分析し、・・・[身に付けさせたい思考力 ④分析・総合]
言語活動 名探偵になりきって論証を評価する。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 論証を評価することに興味をもち、課題解決に積極的に取り組んでいる。	① 筆者の論証を「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分けて捉えている。(ウ)	① 抽象的な語句の意味を文脈を基に推測して理解している。(2年イ(イ))
② 思考を深めるために、積極的に話し合いに参加している。	② 論証の確かさや正しさを指摘している。(ウ)	

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法	単元のねらいと本時の関わり
第一次(導入)	1	1 漫画「名探偵コナン」を読む。 2 ツールミンモデルについて説明を聞く。 3 犯人の論証をツールミンモデルに当てはめて捉え、論証を崩す観点を考える。 4 論証を評価するモデル文を読む。 5 学習計画を確認し、単元の見通しをもつ。 <div data-bbox="331 1070 1368 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 筆者の論証の強さを、ツールミンモデルを用いて分析し、名探偵になりきって論証を評価する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教材に対する批判にならないように、論証を評価するという活動は揚げ足取りをするのではなく、批判的な視点をもって読むことであるということを押さえる。 論証の4つの組立て(「事実」「主張」「論拠」「裏付け)を図示したワークシート(ステップチャート)を活用し、論証の組立てを漫画を例に考えさせる。 単元の見通しをもつために、ゴールとなる言語活動のモデル文を示す。 <div data-bbox="1144 975 1357 1018" style="background-color: #FFD700; border-radius: 10px; padding: 2px 5px; display: inline-block;">授業改善の柱1</div>	〔関・意・態①〕 論証を評価するということに興味をもっている。 【学習計画表】 【WS①：ステップチャート】 <div data-bbox="1496 683 1709 726" style="background-color: #90EE90; border-radius: 10px; padding: 2px 5px; display: inline-block;">授業改善の柱2</div>	<p>本単元では、「論証の強さを評価する」という学習活動を設定しています。そのためには、まず、論証とは何なのか、それを評価するとはどういうことなのかということを知る必要があります。</p> <p>そこで、本時は「名探偵コナン」という生徒に身近な漫画を例に、「論証」「論証の評価」について生徒に説明します。「名探偵コナン」を使うことによって、学習活動に対する意欲を高めることもねらっています。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第二次 (展開)</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">本時の目標: トゥールミンモデルを使って、論証の強さを評価する練習をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6 新聞の投書を読み、論証をトゥールミンモデルに当てはめて捉える。 7 グループで意見交流をする。 8 評価チェックポイントに従って、論証の強さを評価する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 事実・主張・論拠・裏付けはそろっているか。 ② 事実は客観的であるか。 ③ 論拠は事実と主張をつなげるのに適切であるか。 ④ 裏付けは論拠を支えるのに適切であるか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文「作られた『物語』を超えて」の論証の強さを捉えられるように、事前に短い文章で繰り返し練習をさせる。 ・ 正しく論証の組立てを捉えさせるために、文章の構成を参考にさせる（頭括型・尾括型・総括型…どこに筆者の主張があるのかを捉えることにつながる）。 ・ 論証の4つの組立て（「事実」「主張」「論拠」「裏付け」）を図示したワークシート（ステップチャート）を活用して筆者の論証の組立てを捉えさせる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> 授業改善の柱2 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独りよがりな判断にならないように、チェックポイントに×がつく場合には、その理由を説明できるようにさせる。 	<p>〔読①〕 筆者の論証の組立てを正しく捉えている。</p> <p>〔読②〕 筆者の論証の強さを正しく評価している。</p> <p>【WS②: ステップチャート】</p>	<p>トゥールミンモデルを使って論証の強さを評価するためには、まず、トゥールミンモデルを理解し、使いこなすことが必要であると考えました。そこで、まずはトゥールミンモデルを使って短文の論証の強さを評価するという活動を仕組みました。トゥールミンモデルを使って評価するという活動を繰り返すことによって、トゥールミンモデルを正しく理解し、活用できるようになります。</p>

	3 ・ 4	<p>本時の目標：ツールミンモデルを使って、筆者の論証の強さを評価しよう。</p> <p>9 教材文「作られた『物語』を超えて」を通読する。</p> <p>10 「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に該当する部分を要約して色分けした付箋に書き出す。</p> <p>11 3人グループで論証の4つの組立てについて検討する。</p> <p>12 評価チェックポイントに従って、論証の強さを評価する。</p> <p>13 モデル文を参考に発表原稿を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に文章を読ませるために、「事実」「主張」「論拠」「裏付け」という4つの観点を与えて読ませる。 自分の考えを形成するために個人で考える時間を確保する。 正しく捉えさせるため、文章の構成に着目させる。 論証の4つの組立て（「事実」「主張」「論拠」「裏付け」）を図示したワークシート（ステップチャート）を活用して筆者の論証の組立てを捉えさせる。 始めは論拠と裏付けを一括して書かせる。後で内容を整理して分けるようにする。 <p style="text-align: center;">授業改善の柱2</p>	<p>〔関・意・態〕 自分の考えを深めるために積極的に話合いに参加している。</p> <p>【観察】</p> <p>〔読①〕 筆者の論証の組立てを正しく捉えている。</p> <p>〔読②〕 筆者の論証の強さを正しく評価している。</p> <p>【WS③：ステップチャート】</p>	<p>教材文の論証の強さを評価する活動を行います。グループで話し合いながら「事実」「主張」「論拠」「裏付け」を捉えていきます。モデル文に従って筆者の論証の組立について説明させ、論証の強さの評価をしていきます。</p>
第三次（終末）	5 ・ 6	<p>本時の目標：論証の強さを評価したことを、名探偵になりきって発表しよう。</p> <p>14 グループの意見を全体で共有する。</p> <p>15 教師の講評を聞く。</p> <p>16 単元で学んだ内容を100字にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 名探偵になりきるために、発表者は蝶ネクタイを付ける。 学んだ内容を再認識するため、学習を繰り返す活動を入れる。 	<p>〔読②〕 筆者の論証の強さを評価する方法を理解している。</p> <p>【学習計画表】</p>	<p>単元を通して学んだこと、身に付けた力を再認識させます。再認識させることによって、日常生活に生きる、生きて働く国語の力につながっていくと考えられます。</p>

授業の実際

ワークシートから見る本単元の展開

【ワークシート①：ステップチャート】（1／6時）

論証とは何か、論証を評価するとはどういうことなのかを理解させるために、「名探偵コナン」を読ませ、犯人の論証をツールミンモデルに当てはめて捉えさせました。ワークシートは「事実」「主張」「論拠」「裏付け」で構成したチャート型の思考ツールを用いています。

【ワークシート②：ステップチャート】（2／6時）

2時目は、新聞の投書を読み、論証を評価する練習をさせました。その際、評価のチェックポイントに従って論証の強さを評価させました。

【ワークシート③：ステップチャート】（3／6時）

3時目は、教材文を読み、筆者の論証の強さを評価させました。次時にグループで交流することを考え、色分けした付箋に記述させました。

【ワークシート④：グループ交流用】（4／6時）



4時目は、教材文を読み、筆者の論証の強さを評価させました。グループでの話し合いでは、記述した付箋をワークシート上で操作することで、それぞれの考えを視覚的に捉えられるように工夫しました。

資料1 グループでの交流の様子

検証授業を振り返って

授業改善の柱 1

■単元を通して課題解決をめざす言語活動を設定し、目的や意図に応じて文章を読ませる指導

生徒に身近な漫画を用いて、学習の内容と方法を理解させました。筆者の論証を評価するという理解が難しい学習課題を設定しましたが、生徒は「やってみよう」「やれそうだ」という反応を示し、単元の学習に入ることができました。教材文の筆者の論証の強さを評価するという単元のゴールに向かい、漫画、中学生が書いた新聞の投書と段階的に文章を読ませたことによって、生徒は学習の方法を理解し、見通しをもつことができました。

■3フレーズ（指導事項・思考操作・言語活動）の学習課題でつくる見通しのある単元構想

単元を構想する段階で、どのような言語活動を通して身に付けさせたい力を育成するのかという点に時間を掛けました。言語活動に関しては、目の前にいる生徒の実態に合っているか、既習の学習活動との関連を踏まえて、生徒が興味・関心をもつことができるものなのかということに重点を置いて検討しました。

授業の実際には、「筆者の論証の強さを名探偵になりきって評価する」という言語活動を設定しました。学習課題を提示する際には、生徒に身近な漫画を用いることで、学習への興味・関心をもたせるとともに、学習のモデルとして単元のゴールをイメージさせることができました。さらに、ツールミンモデルを用いて分析するという思考操作についても、漫画や新聞の投書の記事を段階的に読ませる手立てによって理解させることができました。

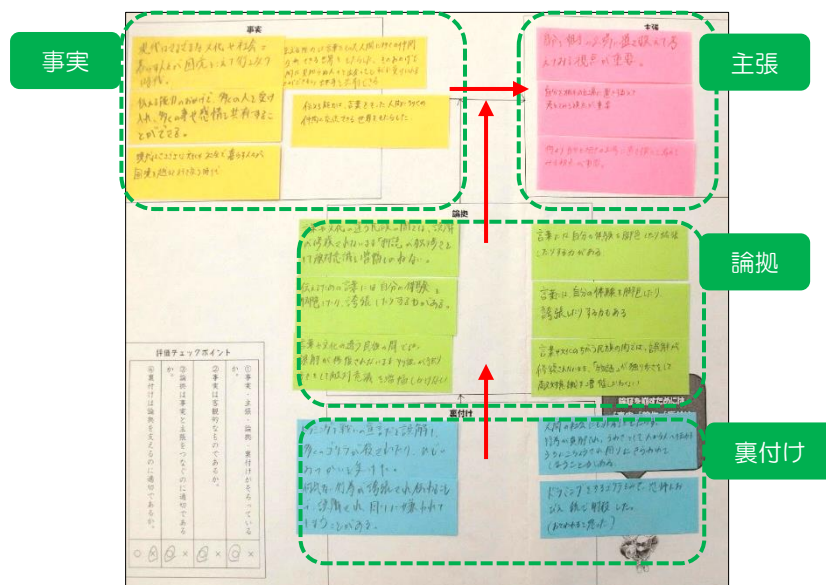
授業改善の柱 2

■文章を読む視点を基に分析的に読ませる指導

ツールミンモデルを用いて論証の組立てを捉えられるようにしました。新聞の投書の文章をツールミンモデルを使って評価する練習をし、同じ視点で読むことを繰り返すことによって、教材文を「事実」「主張」「論拠」「裏付け」という枠組みで捉えながら、分析的に読むことができました。

■思考ツールを活用したワークシートの工夫

ワークシートには、論証の4つの組立て（「事実」「主張」「論拠」「裏付け」）を図示し、漫画、新聞の投書、教材文と同じ形式を用いて筆者の論証の組立てを捉えさせました。4色の付箋に記述させ、グループの話合いでは付箋を操作しながら交流したことで、生徒はそれぞれの考えを述べ、話合いの深まりが見られました。



資料2 思考ツールを活用し、グループで話合いを行ったワークシート

論証の強さについての考え

←

論証の組立ての説明

筆者が、裏付けに自分の研究結果を挙げていることと、ゴリラの研究をしてきたのに、何の根拠をもって「人間は知識を広めたがる」や紛争が起こる原因を「相手を悪と見なしている」などと述べているのかということが、筆者の論証は弱いと思います。人間に対する考え方やゴリラに対する考え方は全て筆者が思っていること、感じていることだと思えます。筆者は「相手の立場に立って事実を知る」などと言っていますが、それを語る筆者自身がそれをできていないのではないのでしょうか。

筆者は、事実としてゴリラが好戦的で凶暴だと誤解されたことで多くのゴリラが射殺され命を失ったことや、動物園に送られ頑丈な檻の中につながれたことを挙げています。そして、そこから、独りよがりな解釈を避け、常識を疑い相手の立場に立つて考えることが重要であり、真実を知ろうとすべきであると主張している。なぜ、このような主張をしたのか、それは、私たち人間の自然や動物、人間を見る目が誤解に満ちていると考えているからだ。だから、私たちは、この論証の論拠はこれだと考えた。だが、この論拠は本当にそうだとはいえるのか。

資料3 筆者の論証の強さについて考えをまとめた生徒（グループ）の記述

評価による学習の振り返り

授業後の定期テストにおいて、本単元で学習した文章の論証の強さについて評価する問題を出題し、その結果を表1に示すように4月の県調査と比較し分析しました。

〔出題の趣旨〕

新聞の投書の文章を読んで「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分け、論証の強さについて論じることができるかどうかをみる。

〔評価の目安〕

① 筆者の論証を「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分けることができる。

※【 】は、授業改善を通して育成する能力

② 「事実」「主張」「論拠」「裏付け」を基に根拠を明確にして論証の強さについて述べている。

【書かれていることを根拠に自分の考えをもつ力】

上記の①、②について17点満点で採点をしました。県調査における期待正答率の考え方に基づいて次のように到達基準を設定しました。

○到達基準の設定：十分達成…60.0、おおむね達成…40.0

○評価：A…十分達成の到達基準以上

B…おおむね達成の到達基準以上、十分達成の到達基準未満

C…おおむね達成の到達基準未満

表1 県調査と単元実施後の定期テストとの結果の比較

評価	単元実施前の 県調査 (4月)	単元実施後の 定期テスト (11月)
A	40.7%	52.6%
B	33.8%	28.8%
C	25.5%	18.6%

単元実施後の定期テストの結果から、少なくとも評価の目安①を満たす、「おおむね達成」の到達基準を上回ったB評価以上の生徒は81.4%でしたが、評価の目安①と②の両方を満たしている、「十分達成」の到達基準を上回ったA評価の生徒は、52.6%にとどまりました。このことから、筆者の論証を「事実」「主張」「論拠」「裏付け」に分けることができきており、本単元を通して、「表現に着目して文章を読み、文章に書かれた内容を理解する力」は付いてきていることがうかがえます。

一方で、根拠を明確にして論証の強さについて述べることは課題が残ったと考えます。しかし、同様の力を問う4月の県調査の結果と比較すると、A評価は11.9ポイントの伸びが見られ、C評価は6.9ポイント減少しています。これらのことから、「書かれていることを根拠に自分の考えをもつ力」も付いてきていることがうかがえます。

これらの結果から、本単元において少しずつではありますが授業改善を通して育成する能力の伸びが確認できました。更なる育成を図るためには、系統的かつ継続的な指導を行っていく必要があると考えます。